

『名古屋セントラル病院』ニュース 早春

中尾院長が「第52回 東海テレビ文化賞」を受賞しました

当院の中尾院長が、「膵臓がんの画期的手術法を確立」したとして、東海テレビ放送より長年にわたり社会や文化、学術、産業などの分野で著しい功績をあげた個人や団体に贈られる「東海テレビ文化賞」を受賞しました。



11月17日の顕彰式の様子（左から2番目が中尾院長）



功績を紹介する特別番組も放映されました

ご挨拶



平素より病診連携にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。

癌の中でも診断・治療が難しいとされる膵臓がんですが、引き続き治療の発展に努め、世界に最先端の外科技術を発信していきたいと思っております。膵臓がん症例のご紹介を今後ともよろしくお願いたします。

また、昨今では新型コロナウイルス感染症拡大により、病院機能及び地域医療の重要度が益々高まっています。地域の中核病院として安心・安全な医療提供を行ってまいりますので、引き続き何卒宜しくお願申し上げます。

名古屋セントラル病院 院長 中尾 昭公

病診連携医専用のインターネット診療予約を是非ご活用ください

当院では引き続きインターネット予約システム(カルナコネク)による診療予約をお奨めしています。操作はとても簡単です。ご興味のある方にはお伺いしてご説明も可能です。是非お問合せください。

メ
リ
ッ
ト

- ◇24時間365日予約可能。夕方の診療中でも翌日の診療予約が可能です！
- ◇診療科はもちろん、各科医師を指定して予約が取れます。(一部診療科を除く)
- ◇お手持ちのインターネット端末でご利用可能、登録・利用料は無料です！
- ◇電話が繋がらない等のストレスなく、予約状況を確認しながらその場で予約がとれます

⇒先生方の予約作業負担の軽減に繋がります！

【問合せ先】 地域・法人連携室 TEL：052-452-3196

今号の主な内容

- ◆2面 人工膝関節置換術に対する取り組み 整形外科 高木英希 科長
- ◆3面 下肢閉塞性動脈硬化症の治療について 循環器内科 泉本正孝 副医長

整形外科『人工膝関節置換術に対する取り組み』

科長 高木 英希

【変形性膝関節症】

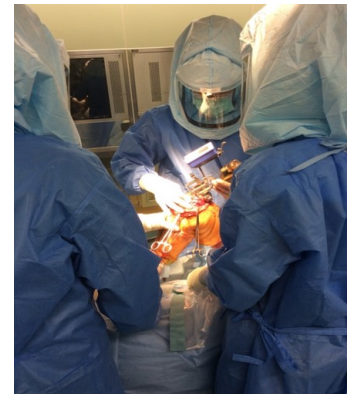
変形性膝関節症とは、膝の軟骨がすり減り、関節の変形が生じて炎症を起こし、痛みが起こる病気で、年齢とともに増加して、80代になると男性の約50%、女性の約80%にみられます。症状は、動きはじめの膝の痛みに始まり、膝の可動域制限、関節水腫がみられるようになります。立位正面のレントゲン検査で、関節裂隙の狭小化および骨棘形成が確認されると診断がつけられます。

【変形性膝関節症の治療】

軽度から中等度の変形がみられる場合には、リハビリテーション、装具、薬物治療法などの保存療法が行われますが、高度の変形がみられる場合には、手術療法が行われます。脛骨の形を変えて、O脚を矯正する骨切り術と変形した関節の表面を金属などでできた人工の部品に置き換える人工関節置換術があります。

【人工膝関節置換術】

当院では、人工膝関節置換術の際に簡易ナビゲーションシステム（Knee Align 2®）を使用しています。従来は術者の目で確認しながら大腿骨および脛骨の関節表面の骨切りを行っていたため骨切り角度に大きな誤差を生じることがありましたが、ナビゲーションを使用したコンピューター支援により誤差が小さくなり正確に骨切りができるようになりました。近年のインプラントは材質や形状が改善されたため、人工膝関節の可動域が大きくなり耐用年数も長くなっていますが、正確に設置されることが術後成績の向上に一番重要な要素です。



手術風景：クリーンルームでヘルメットを着用して手術をします。

アプローチでは、筋肉や靭帯をなるべく温存して低侵襲で手術するように工夫しています。

創閉鎖では、皮下縫合に抗菌吸収糸を使用し、皮膚表面はダーマボンドで密閉して、創感染を予防しています。

術中および術後の出血に対しては、トラネキサム酸の術前静脈内投与および術後関節内投与を行うことにより出血量を減らすことができ、輸血なしで手術が可能になっています。

また、術後の疼痛対策として麻酔科の協力の下持続大腿神経ブロックを行っています。術後2～3日間疼痛コントロールできるため、早期から積極的なリハビリテーションが可能となりました。



簡易ナビゲーションシステム：コンピューター支援により股関節および足関節中心を算出して下肢が真っすぐになるように骨切りができます。

名古屋セントラル整形外科では、患者さんにとって安全、安心に人工膝関節置換術が行われるように手術手技の向上のみでなく感染、出血、疼痛対策もしっかり取り組んでいますので、膝痛で困っている方がいらっしゃいましたら当科までご紹介下さい。

一般外来：月曜～金曜

専門外来：金曜午後（リウマチ・人工関節外来）

整形外科医師紹介



科長
高木 英希



主任医長
鈴木 実佳子

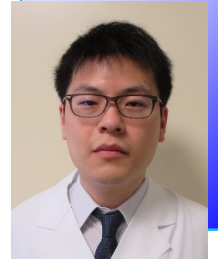


副医長
渡邊 雅之

第101回 病診連携勉強会

下肢閉塞性動脈硬化症の治療について

いずみもと まさたか
循環器内科 副医長 泉本 真孝



令和2年12月15日(火)、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

本邦では近年のライフスタイルの欧米化、高齢化、透析患者の増加に伴い、末梢動脈疾患(peripheral arterial disease:PAD)の患者さんは増加傾向にあります。また、全身の動脈硬化性疾患(polyvasculer disease;PVD)の一部分症をみている可能性が高く、PAD患者さんの61.4%が心血管もしくは脳血管疾患を合併していたという報告もあります。

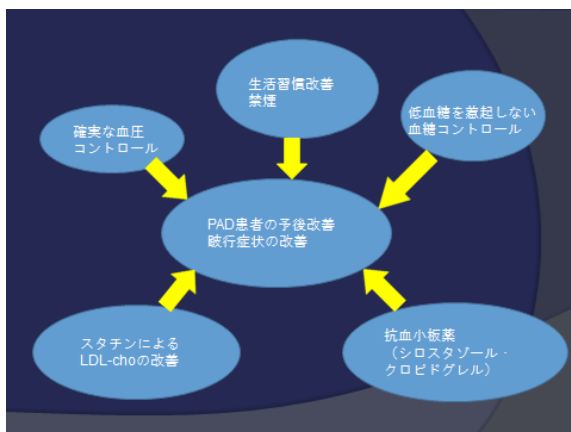
PADの臨床症状はⅠ度:無症状、Ⅱ度:間欠性跛行、Ⅲ度:安静時疼痛、Ⅳ度:潰瘍・壊疽と重症度分類されますが、段階的に進行するとも限りません。また、高齢者では血管性間欠性跛行と馬尾神経障害による間欠性跛行との鑑別や両者の併存も考慮する必要があります。この鑑別においてはABI(足関節上腕血圧比)測定が簡便で有用であり、足関節の収縮期血圧/上肢血圧<0.9で虚血陽性=PADと判断されます。

PADの治療目標は①. 現在の下肢虚血症状の改善、②. 将来の心・脳血管イベントの抑制の両立であり、症状の有無にかかわらず生命予後に関わる全身の動脈硬化性疾患に対するマネージメントが重要になります。

薬物治療で効果が不十分の場合、血行再建療法が検討されます。侵襲度などの面から血管内治療が第一選択とされます。従来のバルーン治療、ステント治療に比べ新しい薬物溶出ステントやバルーン拡張型ステントグラフト、薬物溶出バルーンの登場により治療成績は大きく改善しています。しかし、血管内治療も万能ではなく、股関節部を含む総大腿動脈領域の病変では血栓内膜摘除術などの外科的血行再建となることもあります。

当院では間欠性跛行や動脈硬化性疾患のスクリーニングとしてABI測定を行い、ABI<0.9となる患者さんに対してはPADの精査のみではなくPVDという観点から冠動脈疾患や頸動脈狭窄症などのスクリーニング検査を実施しています。

無症候性PAD患者さんであっても心・脳血管イベント発生率・死亡率は有症候性PAD患者さんと同程度とされますので簡易で低侵襲なABI検査をきっかけとした全身性動脈硬化性疾患の予防、治療介入を行い予後改善に繋がっていきたく考えています。



まとめ

- ABI<0.9のみである無症候性PADでは下肢の予後は良好。
- 無症候性PADであっても心・脳血管イベントの発生率・死亡率は有症候性PADと同等と報告されている。
- PADは下肢だけでなく全身の動脈硬化症の一部分症と捉え、症状緩和だけではなく生命予後改善を目的とした治療介入が重要である。

Topics

新任・転任医師のご紹介



消化器外科 主任医長 山田 豪

やまだ たかひろ

消化器外科領域の中でも、特に高難度手術である肝胆膵外科を専門領域としています。難しい疾患に対する積極的な外科治療をめざすだけでなく、患者さんの安全を第一に考え、しっかりと満足していただける治療を提供していきたいと考えてます。是非、患者さんのご紹介をよろしくお願い申し上げます。

Event

第102回病診連携勉強会

日時：令和3年2月16日（火）14：00～

会場：名古屋セントラル病院 2階 多目的ホール

講師：糖尿病・内分泌内科 科長 江口 陽子

テーマ：持続グルコースモニター（CGM）を活用した糖尿病診療について

日本医師会生涯教育講座 カリキュラムコード：76（糖尿病）

ぜひご参加ください。

■病院理念

- 1 安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療
- 2 健全な病院経営による地域社会への貢献
- 3 協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

■ビジョン

- 1 地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する
- 2 医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する
- 3 充実した救急医療と予防医療を提供する
- 4 地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する
- 5 各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる

編集：名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

〒453-0801 名古屋市中村区太閤三丁目7番7号 TEL:052-452-3165（代表） FAX:052-452-3182

E-mail:hospital@jr-central.co.jp URL:http://nagoya-central-hospital.com